

令和 5 年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人千葉学園 千葉幼稚園 園長 岡本潤子
 学校法人千葉学園 千葉幼稚園学校関係者評価委員会

1. 教育目標 大人も子どもも共に『よくみる よくきく よくする』

八戸に生まれ日本人女性初の新聞記者であり教育者羽仁もと子の言葉を教育課程に織り込みながら、のびのびとした明るい環境の中で人とのふれあいを大切に、毎日の生活を丁寧に『よくみる よくきく よくする』人に。大人も子どもも共に学び合いながら。

2. 本年度取り組んできた重点目標

- 1) 「運動面」における園での子どもたちの取組を具体的に見える化し、教育に活かす。
- 2) 教育内容を積極的に保護者や社会にわかりやすく具体的に伝える。

3. 評価項目の達成及び取組状況

運動・乳幼児・預かり保育・教材研究の 4 つのグループに分かれて研究を実施。「運動」に関しては、年度始めに定めた取組指標・成果指標を基に、また、評価スケール※MOVERS(体を動かす遊びのための環境の室評価スケール)を用いて年度末に成果を検証した結果は下記の通りである。

評価項目	自己評価			学校関係者評価	
	評価	取組状況	取組による成果	評価	意見
運動に関する取組内容と結果を具体的に家庭に伝え、教育によりよく活かす。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひまわりっこがんばり表」の作成と活用。 ・健康だより「すくすくプラス」を発行し、子どもたちの健康や運動に関する家庭での取組のヒントを紙面に伝える。 ・「保育のしおり」の中で、その月に取り組んでいる運動において、どのような視点から子どもたちを支援しているか記載し、運動に関する理解を深めてもらう。 ・4学年が取り組む運動の項目を一枚の中に収めることで、発達に見通しを持っていただけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育講師から各運動種目への取り組み方のポイントを学び、「がんばり表」の運動項目の上達に向けて活かす事ができた。 ・各時期の取組種目について、子どもたちから「今日はやらないの？」とやる気を持った言葉が出るようになった。 ・取組の時期を記入していなかったため、家庭での理解に混乱が生じてしまった。 ・「はげみ表」による見える化をマイナスにとらえる方はいなかったが、補足説明がもう少し丁寧に行う必要があった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携としての「がんばり表」を作成したことはよい取組で、保護者への情報発信がよくできている。愛着不足による集団生活ができない子が多くなってきている近年、親として子どもと身体を動かしたり、動きに関して意識しながらしっかり関わることがとても大切。 ・「がんばり表」を通して言葉のキャッチボールができている。家庭で励んでいくこともとても大切。 ・近年、遊びの中での経験が減少してきている。そのような中でも、発達段階に応じたカリキュラムがしっかり組まれている。 ・「はげみ表」を通して子どもたちの園の様子を“見える化”している。 ・園で子どもができていないことがあるのではないかと、親は不安になるが、そこに関して園とやり取りができると安心する。
教育内容を積極的に保護者や社会にわかりやすく具体的に伝える。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍している講師や研修会などで、乳幼児や運動、教材について学ぶ機会を増やし、学んだことは全員で映像等も利用して共通理解を図る。 ・紙面以外での情報発信の方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスだよりで遊びの内容を具体的に伝えたり、玄関内のホワイトボードで、子どもの会話や、どんなことに向けて保育をしているか文章化し、保護者に見ていただくことができた。 ・保護者全員に同じように伝える工夫が足りなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動に関するアンケート等を通し、それを自園にフィードバックしている。それが指導力や意識の向上につながり子どもたちに還元されている。 ・今日園でどのように過ごしたか知りたい保護者も多いので、写真を活用したり、先生からのアドバイスを文章で伝えることはよい取組。保護者にも、様々な手紙の内容をしっかりと読んで理解を深めてほしい。

4. 総合的な評価結果 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

評価	理由
B+	「がんばり表」を新たに取り入れたことで、運動に関する園の取組を理解したり意識していただくことができた。子どもたちにとっても、取り組みに関する掲示物等によって、自分や友だちの力を“見える化”した結果、運動を楽しみにしたり、意欲的に取り組む姿が見られた。しかし、家庭と園の取組をより深くつなげる方法はもう少し検討が必要だったことと、地域・社会へ向けた情報発信が不足していた点が課題として残った。

5. 今後の課題と具体的な取り組み方法

来年度への課題	来年度への具体的な取組方法
子どもの声を生活に活かし、子どもと共に創り上げる生活を目指すために、幼児教育の「今」を保護者や社会へ発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ①教員全員が ipad を持ったことで、子どもたちの「今」をより具体的にとらえ保育に活かす方法を考え、園内研修にて各保育者から事例発表を行う。 ②9月にECEQ®公開保育を実施することで、参加者から取組に対する意見等をもらい、二学期以降の保育実践に活かす。